

防犯ピラミッド理論に基づく 防犯対策フレームワークの考案と考察

成田 こうじ^{†1}

2024年9月7日

Security Innovation Project

現代の犯罪対策は、技術的手段や物理的対策に頼りがちであり、体系的な戦略の欠如が犯罪抑止の効果を制限している。本研究は、著者がセキュリティコンサルタントとして病院や企業に提供したコンサルティング業務およびセミナーでの経験に基づき、共通する課題やニーズを体系化したものである。日本における防犯戦略は、個人の経験則や暗黙知に依存することが多く、標準化されたガイドラインやフレームワークが不足している現状がある。

そこで著者は、防犯対策の現場で得られたフィードバックを活かし、防犯ピラミッド理論を構築した。この理論は、段階的かつ戦略的に犯罪対策を整理し、従来の手段先行型の対策から脱却するための新たな枠組みを提供する。特に、戦略策定の重要性を強調し、実践的で効果的なアプローチを提示している。本研究で提案する防犯ピラミッドフレームワークは、限られたリソースの中でも効果を最大限に引き出すことが可能であり、犯罪の発生を未然に防ぐための新たな基準として位置づけられる。これにより、犯罪抑止に大きく貢献できることが期待される。

1. 序論

現代社会において、犯罪はますます多様化・複雑化しており、その抑止には包括的な対策が求められている。これまでの防犯対策は、主に技術的手段や物理的な防御に依存してきたが、これだけでは犯罪を効果的に防止することは難しい。特に、単一の対策に頼る従来のアプローチでは、犯罪の発生要因を十分に理解できず、対策の網羅性に欠けていることが問題視されてきた。

本研究では、防犯ピラミッド理論を提唱し、戦略的かつ段階的なアプローチを取り入れた防犯フレームワークの必要性を強調する。防犯ピラミッド理論は、犯罪抑止のための多層的な対策を体系化し、リスク評価に基づく防犯計画の策定から現場での実行までを包括的に捉えることで、犯罪の発生を未然に防ぐことを目指している。本理論は、犯罪抑止の効果を高めるとともに、リソースの効率的な活用を可能にする、新たな基準を提示するものである。

1-1. 背景

近年、犯罪の手口は高度化・多様化しており、防犯対策においても従来のアプローチでは限界が指摘されること

が増えている。特に日本では、防犯対策の多くが個々の経験や勘に基づいた対策に依存しており、標準化されたガイドラインや体系的なフレームワークの不足が顕著である。このような状況下、技術的な手段に過度に依存した「場当たり的」な対策では、犯罪の根本的な防止に限界が生じている。

また、防犯対策を講じる現場においても、各施設や組織の規模や業種によって対策にばらつきが見られ、効果的なリスク評価やリソース配分が十分に行われていないことが問題とされている。加えて、犯罪の発生要因が複雑化しているため、単純な物理的防御や技術的手段だけでは、全てのリスクをカバーできない状況にある。

このような状況を受けて、防犯対策には、より包括的かつ戦略的なアプローチが必要とされている。本研究では、これらの課題を解決するため、防犯ピラミッド理論に基づいた新しいフレームワークを提案し、犯罪抑止の効果を最大化する方法を探る。

1-2. 本研究の目的と意義

本研究の目的は、従来の防犯対策における課題を解決し、より体系的かつ効果的な防犯戦略を提供するために、防犯